

近畿地方の指導にあたって ～歴史的背景を中核とした考察

●『学習指導要領解説』の抜粋

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。「(ア)自然環境を中核とした考察」「(イ)歴史的背景を中核とした考察」「(ウ)産業を中核とした考察」「(エ)環境問題や環境保全を中核とした考察」「(オ)人口や都市・村落を中核とした考察」「(カ)生活・文化を中核とした考察」「(キ)他地域との結び付きを中核とした考察」

(イ) 歴史的背景を中核とした考察

地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などに関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。

●指導上の留意点

近畿地方の学習にあたっては、地域的特色をとらえさせるうえで歴史的背景を中核とした考察が有効である。近畿地方は古代から都がおかれたことから、貴重な文化財が多く存在する。それら文化財は、中国をはじめとするさまざまな地域との交流によって生み出されてきたものであり、伝統的な地場産業にもつながるものである。そうした歴史的背景は、現在の京都や奈良の観光や伝統的な景観の保存ともかかわっている。

近世以来、「天下の台所」として全国の物資流通の中心であった大阪は、近代になると商業ばかりでなく工業都市としても発展し、阪神工業地帯が形成された。阪神工業地帯はアジア諸地域との関係を中心に発展を遂げ、戦前においてはほぼ日本最大の工業地帯であり続け、沖縄あるいは朝鮮半島からも労働者を引き寄せた。

しかし、高度経済成長のなかで、大阪経済は「地盤沈下」を続け、特に卸売・小売業や金融・保険業は、首都圏への一極集中が進むことにより、全国の経済活動に占める近畿圏の割合が小さくなっている。とはいえ、経済活動の規模自体は拡大しており、貿易相手先としてはアジアの国や地域が占める割合が大きく、こうした面にも歴史的背景が見てとれる。

●ワークシートの単元構成 《想定する時間数:全体で5時間》

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
1	近畿地方のあらまし	近畿地方の位置と範囲 構成する府県と大都市	おもな地形、府県名と大都市 古い歴史と文化	p.68
2	京都・奈良の 伝統的な景観	世界遺産や伝統的な景観と観光、 伝統的な地場産業	世界遺産、地場産業 四季と観光客数	p.69
3	工業のあゆみ	阪神工業地帯の形成と現状 町工場	近畿地方の工業地域、工業生産額の変化 東大阪市の工場	p.70
4	経済活動の変化	大規模な都市開発と市街地の広がり、 経済活動の変化	鉄道路線、ニュータウン、空港 三大都市圏の比較	p.71
5	近畿地方のまとめ	大きくとらえた近畿地方 貿易と歴史的背景	白地図上に主な地名や語句を整理する 関西国際空港の貿易先	p.72

近畿地方 ①

近畿地方の あらし

●学習のねらい●

近畿地方の地形や大都市をながめるとともに、この地方が古い歴史をもつことを確認しよう。

近畿地方の地形は、南北の山地部と中央の低地部に分けることができます。北部にはなだらかな中国山地・丹波高地在ががり、南部の紀伊半島はけわしい紀伊山地が広がっています。中央部には大阪平野や京都盆地・奈良盆地などが広がっていますが、大きな平野はありません。こうした平野や盆地には京都・大阪・神戸・堺などの都市が連なる多くの人口が集まる京阪神大都市圏が形成されています。

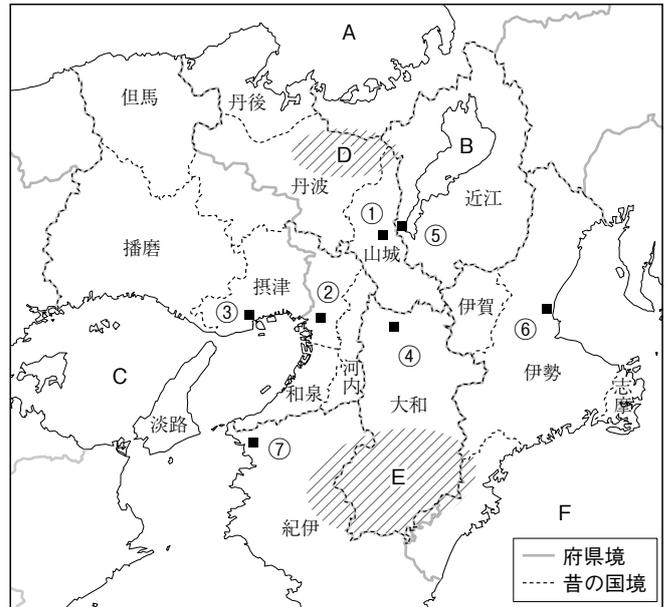
近畿地方には古代より都がおかれたため、古い歴史と文化をもつ地域が多くあります。もともと都（畿）に近い大和・河内・摂津・山城・和泉の5か国を畿内としました。そして、畿内に近い現在の京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀・三

重・和歌山の2府5県にあたる地域を近畿と呼ぶようになったのです。

近畿地方は、北に日本海、南に太平洋を臨み、西は瀬戸内海を経て九州地方・四国地方につながり、東は琵琶湖を経て中部地方へとつながります。こうした水上交通の要衝としての条件が、古代から中世にかけて大陸と結びつく基礎となり、中国などの進んだ政治制度や科学・文化などを受け入れてきました。近世には西回り・東回りの航路によって日本各地と結ばれ、当時の日本経済の中心でした。近代に入ると、アジア地域、さらに世界の諸国との貿易の拠点となり、その後の阪神工業地帯の発展へと結びつきました。

課題 1 右の地図の①～⑦に当てはまる府県名と府県庁所在地名を次の表に記入しよう。

	府県名	府県庁所在地名
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		



課題 2 右上の地図で、畿内にあたるところを、青色で着色しよう。

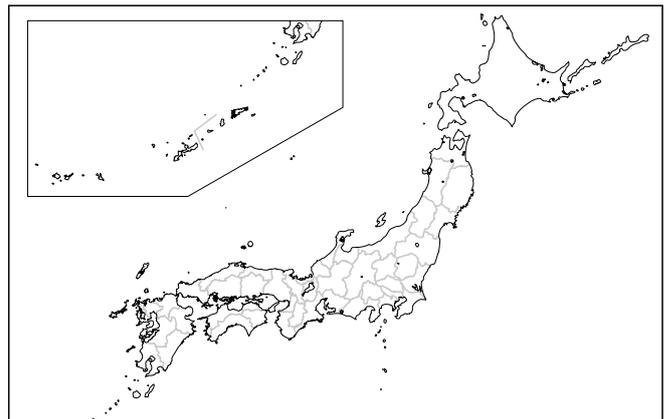
課題 3 右上の地図のA～Fに当てはまる地名を、右の欄に記入しよう。

A	海	B	湖
C	海	D	高地
E	山地	F	洋

課題 4 次の表は、国宝・重要文化財の建造物が100棟をこえている都府県です。それぞれの都府県を右の日本地図に赤色で着色しよう。

都府県	棟数	都府県	棟数
栃木	153	兵庫	216
東京	101	奈良	374
長野	142	和歌山	121
愛知	115	岡山	138
滋賀	232	広島	112
京都	586	愛媛	114
大阪	169		

(2010年4月1日現在)



近畿地方 ②

京都・奈良の
伝統的な景観

●学習のねらい●

京都と奈良の文化財や
伝統的な地場産業、また、
景観を守る方法を調べてみ
よう。

奈良は、8世紀に栄えた平城京のあとに、春日大社や東大寺の門前町から発達した都市です。昔の平城京の跡は広い範囲で保存され、発掘や復元が進められています。「遷都1300年」をむかえた2010年には、大極殿が復元されました。興福寺の南、「ならまち」とよばれる一帯は、元興寺の境内を中心に発達したまちです。江戸時代の末期から明治時代の街並みが今も残っています。

平安京の都であった京都は、碁盤の目状に整然と区画され、そのなかに歴史的な寺や神社などがあります。産寧坂地区を含む八坂神社から清水寺につながる石畳の道筋には、昔ながらの街並みが続いています。一方で京都は、人口約150万人をもつ大都市です。そのため、

めまぐるしく都市開発が進むなかで京都らしい景観をどのように守っていくのか、長年議論されてきました。その結果として京都市は、1972年に「市街地景観整備条例」を制定しました。この条例は、伝統的な街並みを保存するために、指定された地域で建物を新築・改築するときに、市が定めた決まりに従った場合は補助金を支給するというものです。そのほかにも、建物を建築する際の高さやデザイン・野外広告を制限したり、歴史的風土保存地区を指定したりするなどの法律や条例が定められています。しかし、高層ホテルや京都駅ビルの建設時に問題になったように、住民の生活や企業活動と街並み保存をどのように調和させていくかは、とても難しい問題です。

課題1 右の地図の①～⑥に当てはまる社寺や史跡の名称を、次のア～カから選んで下の欄に記入しよう。

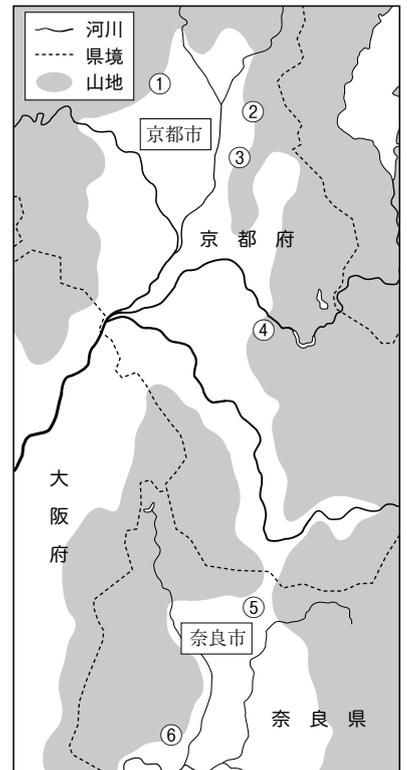
- ア 鹿苑寺金閣 イ 慈照寺銀閣 ウ 平等院鳳凰堂
エ 清水寺 オ 平城宮跡 カ 法隆寺

①	②	③
④	⑤	⑥

課題2 右下の「京都・奈良の観光客数」の表で、それぞれ観光客数の多い月を、上位から3つ選んで赤色で囲もう。

課題3 京都と奈良の伝統的地場産業を調べてみよう。

京都	
奈良	



課題4 京都で伝統的なまちなみを守るために、どのようなことが制限されているか、調べてみよう。

京都市・奈良市の観光客数 (単位:千人 2008年)

		京都市	奈良市
春	3月	4,542	1,401
	4月	5,326	1,308
	5月	5,401	4,452
夏	6月	3,605	1,166
	7月	3,549	998
	8月	4,378	1,161
秋	9月	3,884	1,084
	10月	5,121	1,326
	11月	6,793	1,414
冬	12月	2,805	1,012
	1月	2,581	1,103
	2月	2,225	926

近畿地方 ③

工業のあゆみ

●学習のねらい●

阪神工業地帯の特色や最近の動きを調べてみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

大阪湾岸と淀川流域から大阪市の東側に広がる工場の集中している地域は、阪神工業地帯とよばれています。阪神工業地帯は、江戸時代以前から大阪が商業の中心であったことから、明治時代に入り繊維や日用雑貨、食品などの軽工業を中心として発達し、1940年前後の一時期を除いて常に日本で最大の工業地帯でした。第二次世界大戦後は、大阪市から門真市・守口市などにかけての内陸部で家庭電気製品を中心とする機械工業が発展しました。また、臨海部の海を埋め立てて、鉄鋼や石油化学などの重化学工業を中心とした堺・泉北工業地域や播磨工業地域が生まれ、総合的な工業地帯が形成されました。

しかし、阪神工業地帯は、多くの部品

を必要とする自動車工業や機械工業が他の工業地帯と比べて少ないことや、臨海部の鉄鋼や造船、石油化学工業設備の老朽化や生産の伸びなやみによる工場の閉鎖・移転が進んだことから、全国の工業生産額に占める地位は年々低下しています。

一方で近年、大阪湾ベイエリア地区は、大規模な工場跡地にレジャー施設や商業施設、大規模な会議や展示会などを開催するコンベンション施設などが建設され、工業以外の開発が進んでいます。また、プラズマパネルや液晶パネルなどの最先端の工業製品を生産する大規模な工場が、尼崎市や堺市に進出しました。これによって工業生産額が近年少しずつ回復しています。

課題 1 右のグラフは、阪神工業地帯における工業品生産額割合の変化を表したものです。A～Eに当てはまる工業の種類を、次のア～オから1つずつ選んで、記号を記入しよう。

1983年
総額 35兆751億円

A 27.5%	B 9.9	C 17.5	D 21.8	E 6.2	その他 17.1
------------	----------	-----------	-----------	----------	-------------

2007年
総額 34兆63億円

A 39.0%	B 9.2	C 14.7	D 21.3	E 1.7	その他 14.1
------------	----------	-----------	-----------	----------	-------------

ア 鉄鋼・金属 イ 機械 ウ 繊維 エ 化学 オ 食品

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

課題 2 阪神工業地帯もふくめて、日本の工業地帯が集中している一帯を何といいますか。()

課題 3 大阪府東大阪市は、全国で有数の、工場が集中して立地しているところです。それらの工場の中には、「オンリーワン企業」とよばれる、そこにしかない技術を持つ企業が多くあります。次の表を見て、東大阪市の工業の特色について、まとめてみよう。

【製造業における従業員規模別の事業所数】 ※ () 内は%

	全国 (2007年)	東大阪市
総数	483,084	6,016
1～29人	435,402 (90.1)	5,707 (94.9)
30～299人	44,125 (9.1)	303 (5.0)
300人以上	3,557 (0.8)	6 (0.1)

【製造品出荷額等の内訳】

	全国	東大阪市
1位	輸送用機械器具 18.9%	金属製品 17.2%
2位	化学 8.3%	生産用機械器具 14.6%
3位	食料品 7.4%	プラスチック製品 9.7%
4位	鉄鋼 7.2%	鉄鋼 9.2%
計	337兆8,640億円	1兆2,898億円

(「2008年 工業統計表」より)

.....

.....

.....

近畿地方 ④

経済活動の変化

●学習のねらい●

けいはんしん けん
京阪神大都市圏の拡大と
きん せき
近畿圏の経済活動のようす
を調べてみよう。

1960年代ごろまでの日本の経済の中心地は、西日本では大阪、東日本では東京でした。ところが、政治と経済のつながりが重要になると、経済活動において管理機能と情報が集まりやすい首都東京の地位が上がり、大阪の地位は低下していきました。さらに、1964年に開通した東海道新幹線によって東京と大阪の移動時間が大幅に短縮され、大阪は東京の影響をますます受けるようになりました。大阪に本社をおく大企業のなかには、本社を東京に移したり、大阪と東京の両方に本社をおいたりする会社が多くなっています。

1994年に開港した関西国際空港は、大阪府南部の泉州沖に造られた人工島

で、24時間利用することができます。新空港の完成は、停滞している大阪経済を活気づけるものとして期待されましたが、発着する路線数や便数が思うように伸びていません。残りの工事計画の巨額の費用負担、地盤沈下、高い空港使用料などの問題も抱えています。

大阪府・京都府・奈良県にまたがる京阪奈丘陵には、創造的な学術研究を進め、新しい産業と文化を生み出す拠点として、関西文化学術研究都市が開発されました。1994年に「都市びらき」が行われ、研究機関や大学、企業の研究所などのほか、住宅や商業施設も建設されています。しかし、近年の不況の影響を受けて、企業の進出はなかなか進んでいません。

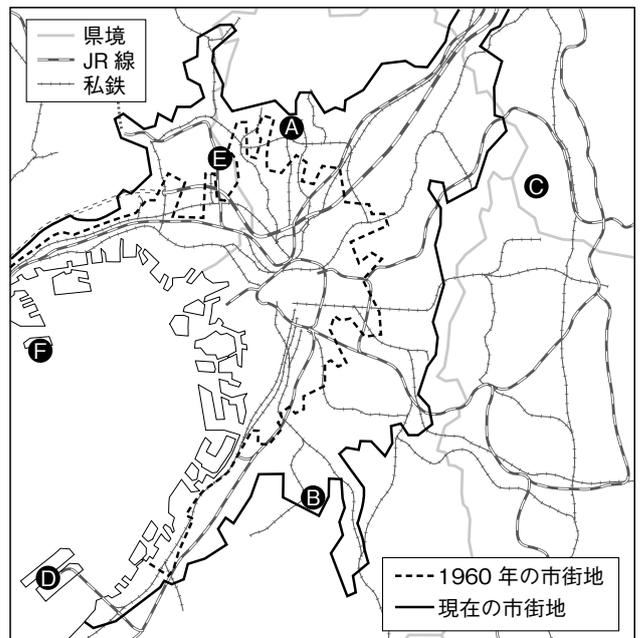
課題 1 右の地図をもとに、次の①～③の作業をしよう。

① 大規模な開発によって生まれたA～Cの都市の名前と、D～Fの空港名を、次の欄に記入しよう。

A	B	C
D	E	F

② 右の地図のJR線は赤色、ほかの私鉄は青色に着色しよう。

③ 右の地図の1960年ごろの市街地を緑色、現在の市街地を黄色に着色しよう。



課題 2 近畿地方の鉄道の特徴をふまえて、鉄道と市街地の広がりとの関係はどうなっているか、考えてみよう。

課題 3 右の表を参考に、近畿圏の経済活動について、【三大都市圏の経済活動】

特色をまとめてみよう。

上段: 県内総生産各項目の合計 (十億円) 下段: 全国に占める割合 (%)

	首都圏		中京圏		近畿圏	
	1960年	2007年	1960年	2007年	1960年	2007年
産業全体	3,935 26.4	158,230 32.8	1,408 9.5	49,820 10.3	2,810 18.9	75,623 15.7
製造業	1,529 32.1	23,746 21.5	550 11.6	18,238 16.5	1,174 24.4	17,770 16.1
卸売・小売業	650 25.9	27,418 39.3	245 9.8	6,876 9.8	538 21.5	11,983 17.2
金融・保険業	255 36.2	17,083 47.7	55 7.8	2,579 7.2	145 20.6	4,933 13.8

(「県民経済計算」より)

※ 首都圏は埼玉・東京・千葉・神奈川、中京圏は岐阜・愛知・三重、近畿圏は滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良をそれぞれ含む。

近畿地方 ⑤

近畿地方の
まとめ

●学習のねらい●

これまで学習してきたことを
白地図に整理してみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

近畿地方のすがたを理解するためには、歴史的背景に注目することが大切です。それは、伝統的な街並みや伝統的な産業にとどまらず、現在の地域的特色や経済活動にも影響を与えているからです。

近畿地方の中央部には、京都・大阪・神戸・堺などが連なる京阪神大都市圏が広がっています。近畿地方には古代から都がおかれたため、古い歴史と文化をもつ地域が多くあります。また、瀬戸内海や琵琶湖を通じた水上交通で日本各地やアジアの国々となつたり、阪神工業地帯の発展に結びついてきました。

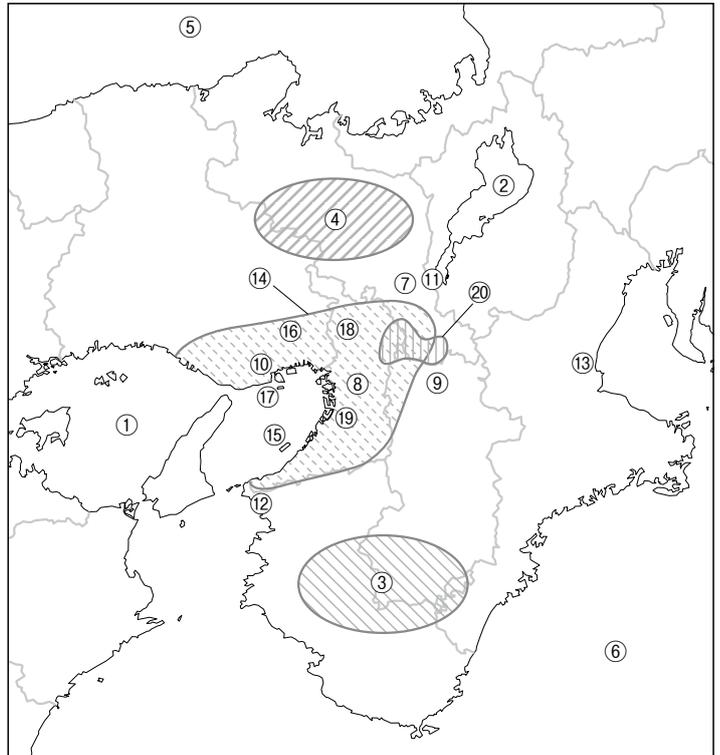
また、第一次世界大戦期、阪神工業地帯には、沖縄や朝鮮半島から多くの労働者が流入しました。特に大阪は、そう

した歴史的背景が現在にも影響を及ぼし、沖縄出身者や在日韓国・朝鮮人が多く集住する地域があります。

1960年代以後、首都圏への一極集中が進むなか、近畿圏の日本経済に占める地位は低下していきました。関西国際空港の建設など大阪湾岸の再開発により、関西経済の復興が図られましたが、期待されたほどの開発は進んでいません。一方で、プラズマパネルや液晶パネルを生産する大工場が湾岸に立地し、工業生産が上向いています。また、近年の大阪市の都心部では、大規模で高層のマンション建設などが進んだことにより、人口の増加が見られます。

課題 1 これまで学習した地名を整理しよう。

①	海	②	湖
③	山地	④	高地
⑤	海	⑥	洋
⑦	市	⑧	市
⑨	市	⑩	市
⑪	市	⑫	市
⑬	市	⑭	工業地帯
⑮	空港	⑯	空港
⑰	空港	⑱	ニュータウン
⑲	ニュータウン	⑳	都市



課題 2 次の「関西国際空港の主な貿易相手先」を見て、気づいたことをまとめよう。

【関西国際空港の主な貿易の相手先 (2007年)】

輸出 4兆 8357 億円

アジア		61.7%
	中国	19.2
	ASEAN	15.4
	(ホンコン)	11
	(台湾)	9.1
	韓国	6.5
	その他	0.5
アメリカ		16.1
EU		16.3
	ドイツ	6
	その他	10.3
その他		5.9

輸入 2兆 9467 億円

アジア		53.1%
	中国	25.6
	ASEAN	14.1
	(台湾)	7.6
	韓国	4.3
	その他	1.5
アメリカ		12.8
EU		24.2
	ドイツ	6.2
	スイス	5
	イギリス	3.9
	その他	9.1
その他		9.9

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

(大阪税関 貿易統計より)